

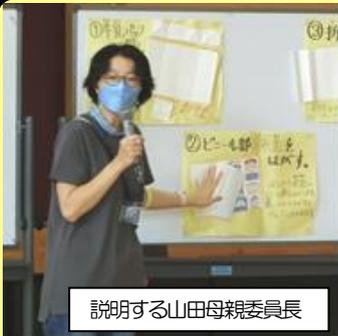
みんなで子育て No.6



夏休み親子で参加する講座が盛んです。

笠松町立笠松小学校 3R夏休み親子学習 牛乳パックでキャンドルシェード作り

7月28日(水) 体験活動型



説明する山田母親委員長

昨年からコロナウイルス感染防止のためにPTAの会合は行えない状況でした。今年は感染防止対策を行ったうえで集まって、学びのある家庭教育学級を開こうと考えました。3Rについての学び、親子での活動を考えました。委員会が開けないので、委員長・副委員長で計画立案を進められました。

会場はエアコンが効く広い講堂です。受付では母親委員と子どもも参加し、参加者に消毒・体温測定・受付の手順を確認、家族がレジャーシートごとに座るようにしています。

★約束：コロナ対策①作業はレジャーシート上で②道具は持参、交換などでの接触を避ける。③換気とマスク着用、水分補給(水筒持参)

○家庭教育学級の学びの場面「3RとSDGsってな～に」というプレゼンを紹介。3R(リデュース:ゴミそのものを減らす・リユース:繰り返し使う・リサイクル:再利用する)とSDGs(サステイナブル・ディベロップメント・ゴールズ:持続可能な開発目標)についての説明もリハーサルを記録したプレゼンを作成して、再生で紹介しています。キャンドルシェードの作成手順の提示も委員で行っています。笠松町では10月からごみの収集法が変わることを押さえながら、環境に配慮するように呼びかけました。段ボールコンポストの紹介及び夏休み中の3Rの呼びかけポスターの呼びかけ提示も配付されました。



プレゼンを見ながら親子で学びます。

○作り方説明 移動黒板と配布資料

牛乳パックを切って開いて、端からビニール面(印刷面)はがすと簡単にはがせます。その後作りたい大きさに切ったり、割いたりします。

持参した、折り紙や、包装紙やシール等で飾り付けたり、色鉛筆で描いたりして、仕上げていきます。完成後、明かりに照らしてみます。

●参加者の感想

児童：光るのが楽しかった。好きなものが貼れた。
選ぶのが楽しかった。作っているときに楽しかった。

保護者

- ・コロナ感染予防に気遣っていただき親子で参加できるイベントを開催していただけてうれしかったです。素敵なキャンドルができ、とても楽しく制作できました。作り方も簡単で3RやSDGsのお勉強もできてよかったです。
- ・親子で作品を作る機会もなかなかないので楽しんでできました。2人でアイデアを出し合って作っていく過程がよかったです。子どももきちんとどうしたらいいかの意見を言っていたので、自分のアイデアも取り入れて満足な作品ができたようです。
- ・初めての試みでしたが、事前のお知らせや準備をともしっかりされて安心して楽しくできたと思います。本当にありがとうございます。



シートの上で親子で作成中

コメント

家庭教育学級としての学びや親子の時間を作りたいと、色々調べられて、自作して試されたり、お店を回って材料を探したりして準備されました。また、感染防止対策をどう進めるかを考え、学校やPTAの中で相談されて、実施されています。学びのためのプレゼンは短時間でまとめて伝えられるように作成されています。参加者の皆さんが今回の準備に感謝されているように、よく工夫、準備がされています。牛乳パックのビニール面を簡単にはがせる委員長さんの姿から、かなり練習されたようで、どうしたら参加者が上手くていいのかを考え試されていたかが分かります。委員さん方の研究等、熱心な姿勢が素晴らしいですね。



岐南町中央公民館 焼き絵で宝箱をデザインしよう(焼き絵) 7月29日(木) 体験活動型

岐南町の中央公民館では毎年夏休みに「夏休み子ども教室」を行っています。昨年この時期に感染対策をしながら実践されていました。今年も16講座が計画されていました。今回は人気の「焼き絵」を取材しました。

●感染対策：消毒・検温、体調確認、家族で1つの机、換気のために出入口は開放した状態です。兄弟での参加も多くありました。時間短縮のため、宝箱の装飾も少なめにできるよう工夫されています。



講師 堀江克哉 氏



姉妹で集中



親子で集中

●流れ

宝箱は・着色なし・金色・茶色・紫の4種類の中から選べます。
絵を写す→電気ペンで焦がす→色鉛筆で塗る→ニス塗る

○制作の様子

・イラストを写します。

決められた大きさの紙に好きなイラストを持ってきています。線が分かりやすいものがよいようです。アニメのキャラクターやきれいな模様、中には古生代の生物アノマロカリスの絵もありました。楽しそうに貼り、箱との間に写し紙を挟んで、上からペンで線を引きます。ちゃんと写っているか何度もめくって確認します。

・電気ペンで線を引きます。

電気ペンの使い方、やけどの恐れがあることを聞きます。次に、配られた木の板で焦がす練習をします。きれいに線が引けると点線やムラになるときがあります。ゆっくり・やさしく(筆のように力を入れない)・止まらない、とアドバイスがありました。曲線は難しいようです。また、お子さんには「ゆっくり」がなかなか難しいようです。集中が大事ですね。練習の後は本番です。

小学1年生の子がゆっくり集中してできていました。「線がキレイですね」と話すと保護者から「この子は手先が器用です」と話されました。聞いている子もうれしげです。いいですね。

お子さんが、焦がす作業が終わって色塗りをしていると、隣のお母さんが電気ペンで練習の木に線を書いて「楽しい」と話されていました。親子で楽しめているようです。

色塗りが終わると、ニス塗りをして乾かし、ラインストーンを自分で選んで貼って完成です。



参加者の感想

- ・子ども：「めっちゃくちゃ楽しかった。焦がして線を引くのが良かった。色塗りも楽しかった。」
- ・保護者：「楽しかった。子どもが一瞬懸命集中しているのが見られた。」
- ・親子で参加した子：「難しかったけどいい線が引けたので良かった。」母：「楽しかった。子ども教室は初めてだったけど楽しめてよかった。」
- ・別の保護者：「集中して線が引けるわが子が見られてうれしかった。」

コメント

好評のウッドバーニングは子ども達が好きなキャラクターやデザインを宝箱に描ける楽しい活動です。小学1年生でも保護者の協力でうまく描けます。色塗りをしてニスで固定したり、キラキラ光るものを貼ったりして、自分で工夫できるのが良いですね。親子で楽しい時間を過ごせることや我が子のがんばる姿を見られることが嬉しいようです。木を焼いて線を入れるのは気持ち良く、練習を何度もしてから作品に取り組むなど、作業の順序もよく考えられています。夏休みに子どもが夢中になれる姿が今年のよい思い出になりますね。



●子どもげんきはうす

子どもげんきはうすは児童館としてまた、放課後児童クラブの会場として活用されています。当日も夏休みに入った小学生が放課後児童クラブに参加し、各自の学習や活動を行っていました。

児童館の機能として、毎月乳幼児対象の「マミーサークル」、親子で遊べる工作を行う「わくわくタイム」、親が学ぶための「はぐはぐ」(2時間)を行っています。

当日は始まる前から多くの親子が来館されて、多くの遊び道具で一人遊びをしたりみんなで遊んだりしていました。



●げんきタイム

みんなで手遊び・体操・お話などをして楽しむことができる時間です。時間になると音楽を流し、すると使っていたおもちゃを片付けます。鈴がなり始まります。

○内容は

- ・パンダの人形がマスクをして挨拶してくれます。
- ・手遊び バスに乗って
バスに乗ってサバンナへ
- ・体操:アンパンマン体操 楽しく運動、親子でできます。
- ・虫歯エプロンシアター 虫歯建設株式会社



保育士さんがエプロンに付いている甘いものを食べる男の子の顔の様子をみせます。お腹がいっぱいになってそのまま眠ってしまいました。エプロンの顔がめくれ歯が見えます。ムシバイキンが、ハンバーグのかすで歯を掘ります。クッキー、チョコレートでも掘っています。穴ができちゃう。大変だ!

でも、歯ブラシできれいにして一安心。
子どもたちは怖いのかな?ちょっと固まって見えています。

- ・お話:絵本「おばけだじよ」
おばけだじよ・食べちゃうじよ・口を開き、鋭い歯が光る・「ばあ!」・怖いお話のようです。
読み終わると、ある子が「おばけじゃない。○○だ」
「えっ!本当。」もう一回読んでみよう。
はい、おしまい

夏は水遊び・げんきタイムで楽しもう。皆さん終わっても残って話しています。

●参加された方の感想

- ・今日の虫歯は怖かったようですね。子どもが固まっていた。でも遊べる、歌える、体を動かせる等楽しいのでいつも来ています。みんなと話せて楽しいです。
- ・保育士さんが子どもの名前で呼んでくれるので、うれしいです。身近で来やすい場所です。



△ムシバイキン怖い



おばけだじよ

令和3年度 学びの空間
はぐはぐ(hughug) 子どもげんきはうす
10:00~11:50

月	日	曜日	テーマ
4	16	金	「子どもに学ぶ家庭教育」って何?
5	14	金	子どものサインをキャッチする
6	18	金	お手伝いを喜んでやってもらうには
7	9	金	遊びから学ぶこと
8	20	金	進んで宿題をする子に育てませんか?
9	17	金	うそをつく子どもと親のあり方
10	8	金	お母さん、自分の長所が見えますか?
11	12	金	お父さんに頑張ってもらおう勉強
12	17	金	子どもの心に添ったほめ方・叱り方
R4	14	金	もっといい子どもを育てるには

コメント

「げんきタイム」が始まる前から多くの親子が居て、終わっても互いにお話をして帰ろうとしないことからいつも来ている感じが分かります。

「エプロンシアター」虫歯予防のお話は「歯の健康から日本一健康な市を目指して」を掲げている山県市にあって意図的に実施されていますね。

また、学びとしての「はぐはぐ」は子育てに関わる保護者にとって貴重な機会であり、子どもが成長しても継続的に参加されている方がいると聞きました。児童の健全な遊び場の確保、健康増進、情操を高めることを目的とした事業を進める児童館の機能が充実していると感じました。



●羽島市 不二竹鼻町屋ギャラリー

芸術作品を鑑賞する場を提供することや、郷土の文化に関する情報を発信するとともに、芸術等を通じた交流促進による地域の賑わいを創出することを目的として、竹鼻まちなか地区の風情あるまちなみに配慮して町屋形式の民家（市所有大正3年建築旧菱田邸）を建て替えて開館されました。

「ワク☆ドキこどもびじゅつかん2」は子どもや保護者に芸術に親しんでもらうための企画展です。今年の1月～2月に行いその第2弾です。内容は



- ①おおきなかみにえがいてみよう：床一杯の紙に自由に好きな絵を描けます。
 - ②えほんをよもう：美術、アートに関する絵本が展示されていて読むことができます。
 - ③みんなでつくろう紙コップタワー：紙コップに絵を描いて、積み上げたり並べたりしています。
 - ④スタンプでえがこう：●▲■のスタンプをつかってえがきます！
- 来館された家族のお話や様子



「幼稚園でチラシをもらい、お友達から居心地がいいと聞いていたので、来てみようと思っていました。(乳幼児2人と一緒に参加されていて)涼しく子どもが自由にお絵描きできるのでいいところです。」楽しそうに時間を忘れて描いています。

スタンプの型を使って描いた後、自分の指で花火を描いている子もいます。表現することが好きになりそうですね。

●保護者向けミニ講座—子どもにとって「絵」の大切さ— (期間中4回実施)

館長今井田一巳氏による講話です。主な内容は

- ・絵は子どもの心を耕します。
- ・子どもが喜んで造形遊びをするには、2, 3歳で絵を描き始めたときに正しい声かけをする必要があります。
- ・子どもの心に立ち入ってはいけません。
- ・何を描いても褒めてあげることが大事

例① 子どもが波線を描いた。

母：何を描いたの？→このように聞かない

子：海を描いたの

母：海には魚がいるね

子：(魚を描いたつもり)

母：魚には尻尾があるでしょ、こんな△の形

→子どもにその形を決めて教えると依存心が強くなり、母がいないと絵が描けなくなります。

例② 鳥の絵を描いて、足が4本あったら

認めるには勇気がいりますが、科学的真実は別の機会に伝え、美的真実を認めていきましょう。個性を生かすこと、周りと違うその子の創造性を認めること、型にはめないことが大事です。

●参加者より質問や感想

- ・子どもの既成概念をどうやってくずせばいいの？孫にどうやって声を掛けたいの。
→材料や道具・視点を変えましょう。
- ・「何を描いているの」と聞いてはいけないと言われるけど、何を描こうとしているかの想いを受け止めたのですが。→「よく描けているね」というのがよいですね。
- ・美術の視点からの子育てに関わるお話はなかなか聞けません。今日は子育てに関わる貴重なお話でした。

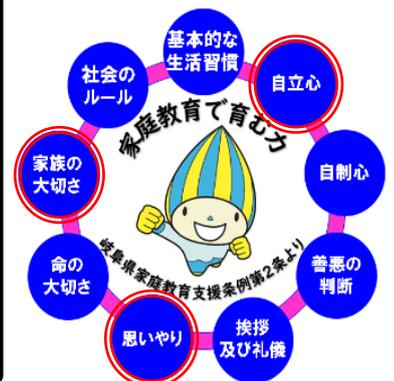


コメント

小学生や未就学児の親子対象の美術イベントは珍しいです。来場されたお父さんが、何度も絵を描いたり作品作りをしているのを見たり、親子で一緒に作ったりしている姿は楽しそうで、微笑ましいです。子どもが自分で色を選んだり、絵を描き続けたりする姿は心の開放を感じます。

館長さんの「子どもが描いた絵を必ず褒める」というお話から、今回のイベントそのものの雰囲気が伝わってきます。子どもの感性を育み、個性を伸ばすということは、乳幼児期の育て方と共通するものがあると感じました。

講座に参加された方は、絵を通して実際に子や孫にどう接するのかといった目的意識が高く、学び多き時間になったようです。





講師 岐阜新聞社 神保絵莉子氏

●新聞づくりについて

- ・新聞の第一面には写真や絵、天気予報、地図、クイズ、今日は何の日等いろんな情報があります。
- ・岐阜新聞の題字の後ろには何が描いてある？
- ・見出しは、10文字くらい。(新聞記者さんより)
- ・初めて知ったこと、新たに知ったこと、家族や友達に伝えたいこと、ノートにときめきを書こう。
- ・自分で「見て・聴いて・感じて」



山のような書架：電動にもびっくり

●新聞づくりをしよう！

- ・探検の感想は？ 県図書館は広い！ 100万冊の多くの本。本棚が動くのにびっくり。絵本の大きいのが楽しい。日本一の地図の量がすごい。
- ・題名を決めよう！ びっくり図書館新聞・山新聞・地図新聞等
- ・文やレイアウトをお父さんやお母さんが示したり親子で相談したりしながら取り組みました。一緒に見学したことやパンフレットをもとに考えて作ります。いいコミュニケーションができています。

岐阜県図書館では「パパと過ごす図書館」が年間6回計画されています。今回は夏休みに開催された活動です。図書館の探検をして、新聞にするための講師は岐阜新聞社の神保氏です。ほかに記者の方もいらっしやって、新聞づくりの支援をされていました。

図書館探検で日頃見られない所を見学するだけでなく、新聞にして発信しようとする、参加の姿勢が違います。多くの資料が用意されていますが、各自にノートが配られると子どもたちは、メモを一生懸命取ります。目的があるというのがいいですね。図書館の方に質問された時のみんなの反応も良かったですね。

●ふつうは入れない10か所を探検

- 1 相互協力室：市町や県をまたいで本の貸し借りができます。
- 2 選書室：年間約7万冊の発行があり、選定基準に合わせその中で図書館に配置する1300冊ほどを選定します。
- 3 地図資料：15万点日本で一番多い。海図、昔の地図等多種多様
- 4 郷土資料
- 5 燻蒸庫：東海地区では岐阜、三重のみ
- 6 貴重書庫
- 7 集密書架：電動で動く書架
- 8 雑誌：資料によって永年・10年・5年保存を区別
- 9 読み比べ(児童書)同じ題名で内容が少し違うのもあります。
- 10 児童図書研究室：子どもと本の出会いの大切さを伝えます。



いろいろな地図に興味津々



読み比べ



親子で新聞作成中

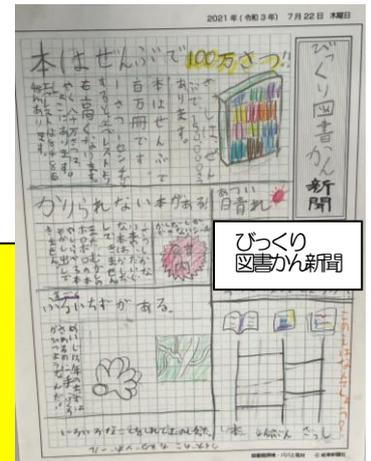


相互協力室

親子で驚き、楽しんだ図書館！
岐阜県図書館 パパと過ごす図書館
「図書館探検・パパと取材」
七月二十二日 体験活動参加型

●配布された資料

- ・本日及び記念日の新聞
 - ・図書館探検 案内書 (クイズ入り)
 - ・岐阜県図書館まめてん
 - ・児童図書研究室のご案内
 - ・図書館探検の地図
 - ・図書館探検ツアーコース 概略版
 - ・ノート等々
- 他にも辞書や新聞づくりの本も用意されています。



びっくり図書館新聞

●参加された方の感想

- ・子：図書館、面白い！地図が日本一の量があるのが見学できて良かった。
- 父：新聞づくりで子どもがびっしりメモをして、記事にしている。一緒に考えた事、子どもが思った以上に書いているのを感じ、成長をしているのが嬉しいです。
- ・父：図書館の裏が見られて良かった。ここまでサービスがあるとは思わなかった。いろいろな本を調べてくれるサービスにびっくりでした。今まで以上に本に興味をもてました。

コメント

参加しているお子さんの興味が高く、講師からの言葉に素直に反応したり、挙手したりする姿は、気持ち良いものでした。また、館内の見学も普段見ることができない場所で、貴重なものもあり、大人も見学してよかったと言えるものでした。

この見学に図書館の職員の方がそれぞれの場所での説明やクイズを出すことで知的好奇心を高めています。また、新聞づくりが親子でできたことは貴重な体験だと思います。親子の素敵な時間でした。

